

## 1996.10



上陸開始。グレードはベーシック／スポーツ(トラクションコントロールやスポーツサスペンション等を備える)／コンフォート(レザーシートやオンボードコンピューター等を装備)の3種で、全車に新開発の水冷2.5ℓフラットシックスユニット(最大出力:204ps/6000rpm、最大トルク:25.0mkg/4500rpm)を搭載。それぞれに5段MTと5段AT(タイプトロニックS)が設定され、ベーシックとコンフォートでは右ハンドルが選べる。



## 1999.10



エンジン排気量が2.5ℓから2.7ℓ(最大出力220ps/6400rpm、最大トルク:26.5mkg/4750rpm)へと拡大され、中央部にアルカンターラを配したシートが標準となる。加えて3.2ℓユニット(最大出力:252ps/6250rpm、最大トルク:31.1mkg/4500rpm)と6段MTもしくは5段タイプトロニックSを組み合わせるハイパワーバージョンのボックスター-Sを追加。また全車にサイドエアバッグ(POSIP:ボルシェ・サイド・インパクト・プロテクション)を標準装備するなど、室内装備もアップグレードされる。



## 2000.10

2001年モデルが登場。トランクリッドとエンジンフードのロック解除レバーに代わり、電動トランクリッドロック解除ボタンが装備される。また室内各部にLEDを用いたオリエンテーションライトを配して夜間時の利便性を向上させたほか、ルーフ・ライニングに特殊素材を採用し、室内のノイズレベルを低下させている。さらにメーターデザインが変更され、照明にはLEDを採用。ボックスター／ボックスター-Sともにオプションでスタビリティプログラム(PSM:ボルシェ・スタビリティ・マネージメント)を装備することが可能になる。



## 2002.2

オーナーの注文に合わせてボルシェAGで入念にフィッティングされるオプションプログラム“エ

クスクルーシブ オプション”の中より、厳選したアイテムを装着したボックスター エクスクルーシブが50台限定発売される。ボディカラーはスピードイエローで内装色はブラック。5段MTと5段タイプトロニックSの両方を設定。



## 2002.8

2003年モデルの販売がスタート。前後バンパーとスポイラー形状のほか、灯火類のデザインを変更するなどしたフェイスリフトが施される。加えてボックスターの2.7ℓエンジンとボク



スター-Sの3.2ユニットともに新型ヴァリオカムを採用し、最大出力がそれぞれ、228ps/6300rpmおよび260ps/6200rpmへ向上。また2002年モデルまでは樹脂製だったソフトトップのリアウィンドーがガラス製(ヒーター付)に変わり、オプションで設定されているアルミ製ハードトップに近いシルエットになる。室内のデザインと装備にも手が増えられ、カップホルダーを標準装備したほか、前後トランクリッドのリリースが可能なリモートコントロールキーを採用する。



## 2003.12

550スパイダーのデビュー50周年を記念した特別限定モデル、ボックスター-S 550スパイダー エ

ディションが限定販売される。内外装に加えエンジンにもモディファイが加えられ、最高出力が266ps/6200rpmへとパワーアップ。総生産台数1953台のうち、61台が上陸する。



## 2004.12

現行型(タイプ987)がデビュー。



911以外のモデルとして史上初のヒット作となった

初代ボックスター(タイプ986)は、

ボルシェの魅力により多くの層へと

広めることに成功したほか、

同社の経営危機を救ったモデルとしても認められている。

ニューモデルのリリースで

旧型となってしまったものの

「ボルシェ認定中古車 Porsche Approved」市場では

依然として安定した人気をキープ。

ここでは初代ボックスターの

日本仕様の変遷について紹介していく。



# BOXSTER HISTORY